

## 国立病院機構宮城病院

国立病院機構宮城病院が位置する山元町は人口およそ1万2千人、仙台市中心部から南へ50km離れていますが仙台医療圏に属しています。山元町は2017年の高齢化率が37.8%と超高齢化が顕著で、当院も後期高齢者の患者が多く、90歳台の方も珍しくはありません。脳神経内科の患者も神経系疾患以外に老年症候群といわれる様々な身体的問題を抱えている高齢者が多数を占めています。パーキンソン病患者でも70歳台、80歳台が中心で、認知機能低下を合併したり、フレイルの状態になっている方が多いために単に抗パ剤で治療するだけでは十分でなく、さまざまな内科的問題に対応する必要があります。頭痛、めまい、失神などの common symptoms で近隣の医療機関から紹介されて受診する方々も、やはり高齢で神経系以外の疾患をもっている方が多く、内科や循環器科と共同で対応しています。このような診療環境の中で、当院脳神経内科は神経難病に対応するのはもちろんのこと、神経系の問題を持った高齢者を、全身的・総合的に診る general neurology 科として機能するよう努めています。

宮城病院はこの地域で唯一の病院であり、地元からの期待は大きいものがあります。山元町、亶理町と定期会議を開催して行政との情報共有を図り、町の健康祭りへの参加や健康食についての啓蒙活動、さまざまな健康相談など、地域の保健福祉活動へ積極的に参画しています。2017年度からは、近隣地域の介護事業者や福祉職の人たちを対象として「医療と看護・介護の多職種連携研修会」を開始しました。1回目は「褥瘡予防について」、2回目は「嚥下障害のリハビリテーション」をテーマに行い、参加者からは非常に好意的な評価を受けました。今後も摂食・嚥下、褥瘡への対応など実践的なテーマを選んで地域へ情報発信をする予定です。さらに、毎年開催している地域住民対象の「公開講座」では、今年度は「歯の健康」を主題として当院の歯科医およびリハビリテーションスタッフに講演してもらいました。

今後も、宮城病院脳神経内科は県全体の神経難病医療への貢献とともに、地域密着の診療活動をバランスよく両立させ、地域全体を診る脳神経内科として活動を続けていきます。

(永野功)

